

学校における働き方改革上士幌アクション・プラン(第2期)【中間報告】

2023(令和5)年10月18日

I はじめに

- 学校における働き方改革は、教員が子どもと向き合う時間の確保を目指している。町教委はこれまでの取組の進捗状況を把握・分析しながら、より実効性の高い働き方改革を積極的に進めるため、第2期の上士幌アクション・プランを改訂し、実効性ある取組を進めてきた。

II これまでの取組の成果と課題

- 町教委はこれまで、タイムカードによる出退勤管理システムの導入、少人数学級町費職員の配置、業務改善アドバイザーによる研修・改善、留守番電話の設置、調査業務の簡素化、スタッフの配置等に取り組んできた。こうした取組の成果として、勤務実態調査の結果から一定の縮減効果が認められる一方で、未だ一部の教職員が長時間勤務となっている実態がある。
- 本町の学校における働き方改革の理念を正しく理解し、全ての学校において勤務時間を意識した働き方を実践できれば、目標の実現に大きく近づくことができると考えられる。

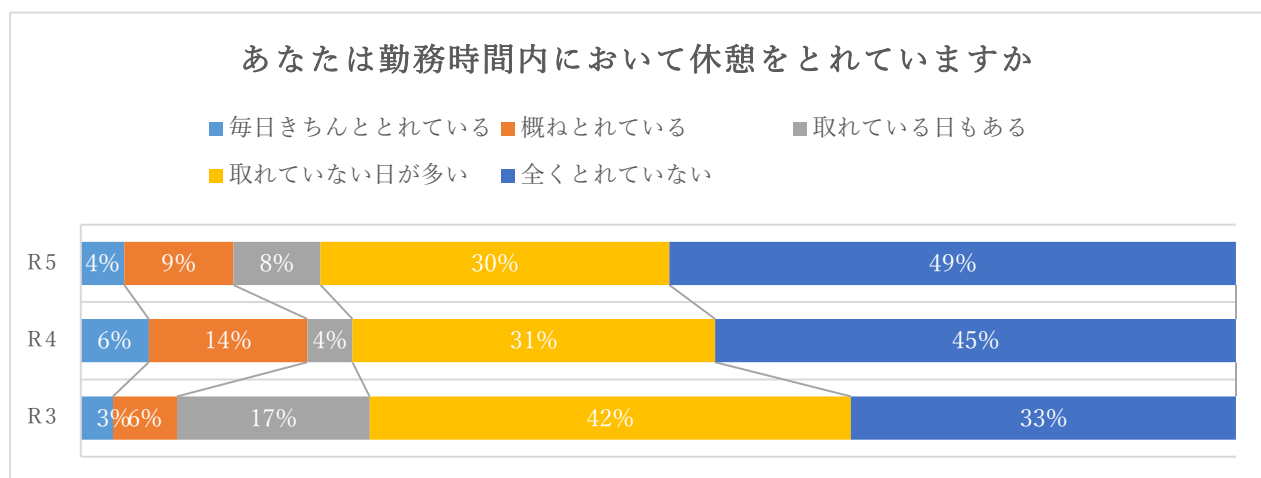
【町立学校における教職員一人当たりの1か月の時間外在校等時間の平均】
小学校・中学校統計(管理職除く県費負担教職員)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
令和2	29時間28分	8時間44分	43時間18分	43時間8分	26時間22分	40時間23分
令和3	32時間32分	28時間07分	37時間32分	27時間34分	15時間29分	31時間53分
令和4	38時間07分	36時間50分	44時間30分	28時間35分	19時間23分	38時間59分
令和5	32時間24分	33時間28分	32時間45分	20時間23分	14時間02分	33時間05分

【月45時間以上の超過勤務実態】(%)

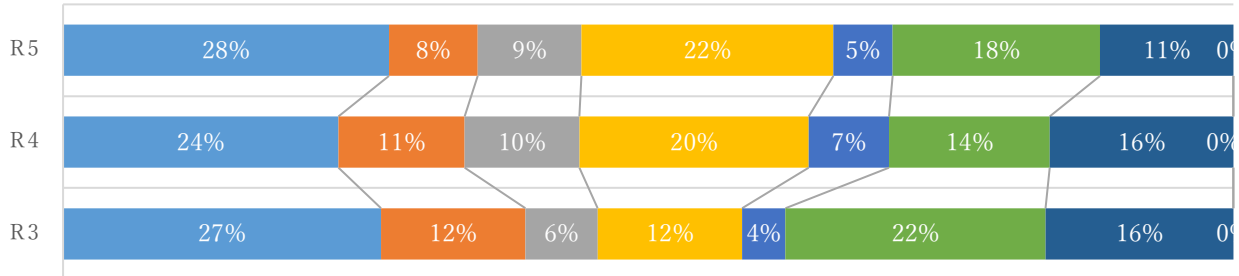
	小学校	中学校
令和2	35	53
令和3	23	19
令和4	25	32
令和5	18	18

【教職員アンケート(県費負担教職員)年度比較】



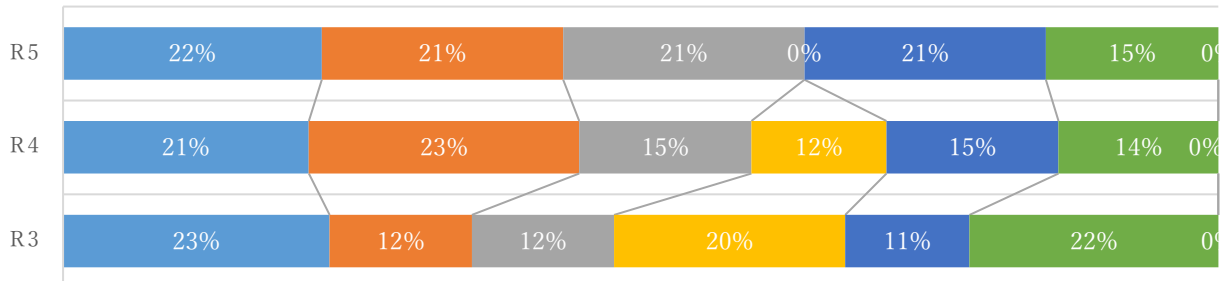
超過勤務の要因となっていると感じる業務について
特に当てはまるものを選択してください（複数回答可）

- 授業準備
- 学年・学級経営
- 生徒指導
- 特別な支援が必要となる児童・生徒・保護者への対応
- 成績処理
- 校務分掌業務
- 少年団・部活動指導
- 地域支援・PTA活動



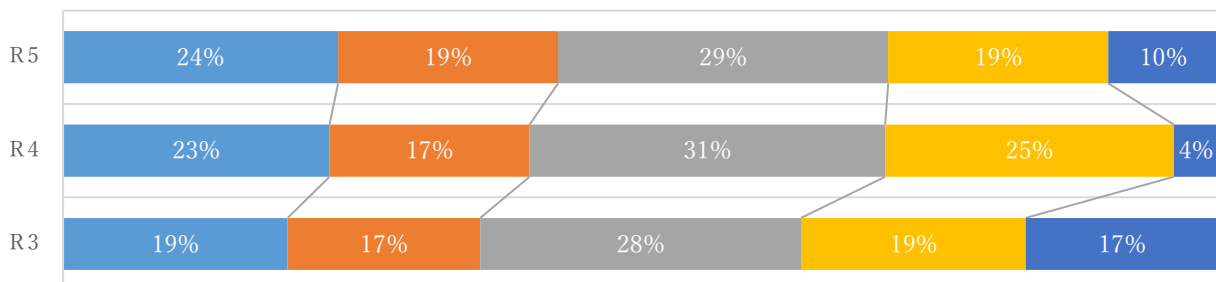
超過勤務をおこなった理由について感じていることを次の選択肢から
特に当てはまるものを選択してください（複数回答可）

- 忙しい時期とそうでない時期の差が大きい
- 予測できない突発的な仕事が多い
- 個人間の仕事分担に偏りがある
- 業務量が多く、現状の人員では長時間勤務せざるを得ない
- 提出物の確認、集計、印刷、書類の整理など事務的な仕事が多い
- 時間はかかっても納得できるまで仕事に取り組みたい
- 仕事の見直しや改善を提案する機会や雰囲気がなく、現状のまま続けざるを得ない



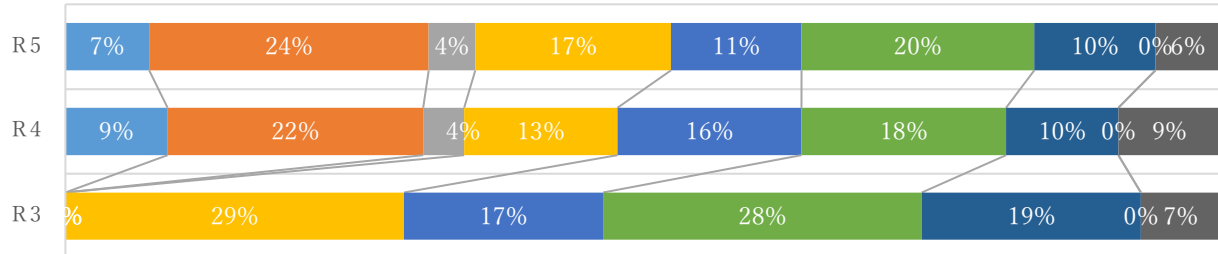
自分の仕事量が多く、
日常生活や家庭生活を犠牲にしていると感じながら仕事をしている

- あてはまらない
- どちらかというにあてはまらない
- どちらともいえない
- どちらかというにあてはまる
- あてはまる



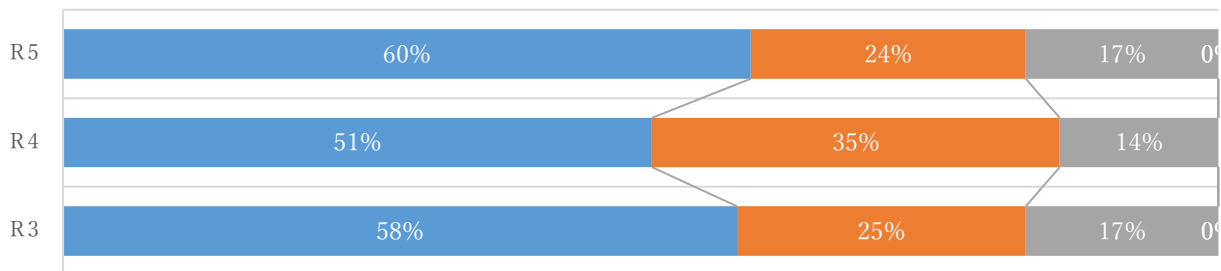
学校における働き方改革の取組の中で、超過勤務の縮減や業務負担の軽減に効果があったと特に感じるものを選択してください（複数回答可）

- ICTの活用
- 町費職員（ICT・専科・TT等）の配置
- 定時退勤日の設定
- 長期休業期間中の学校閉庁日の実施
- スクールサポート・スタッフの配置
- 留守番電話（メッセージ機能）の設置
- 少年団・部活動の活動時間や休養日の設定
- 業務改革や働き方改革に関する研修
- 特になし



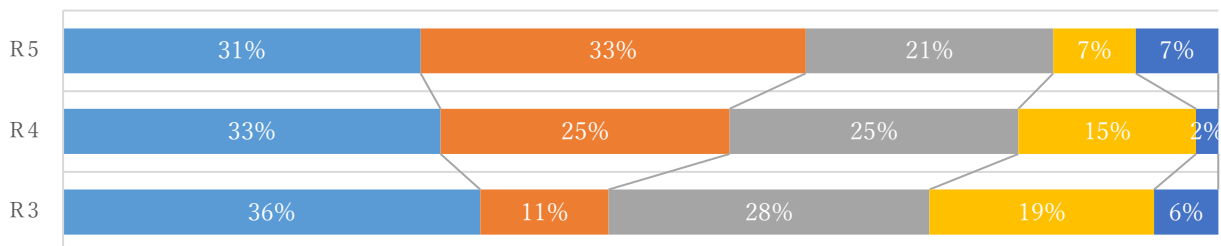
職場の雰囲気として自己都合の年休取得や定時退勤がしにくいと感じている

- あてはまらない
- どちらかというにあてはまらない
- どちらともいえない
- どちらかというにあてはまる
- あてはまる



あなたは現在、仕事の内容や職場の人間関係でストレスを感じていますか

- 感じていない
- どちらかというと感じていない
- どちらともいえない
- どちらかというと感じている
- 強く感じている



Ⅲ アクション・プラン（第2期）の具体的な取組

重点的に実施する取組	① 在校等時間の客観的な計測・記録と公表 ② メンタルヘルス対策の推進等 ③ 働き方改革手引「Road」の積極的な活用 ④ ICTを積極的に活用した業務等の推進 ⑤ 部活動休養日等の完全実施 ⑥ 地域との協働の推進による学校を応援・支援する体制づくりの推進
新たな取組	教頭への支援、サポート体制の充実（スクールロイヤーの配置検討）